2024 年 5 月 22 日
川田テクノロジーズ株式会社

2024 年 3 月期決算説明会　質疑応答

※ 当日の質疑応答をそのまま書き起こしたものではなく、当社の判断で一部加筆・省略したものであることをご了承下さい。

Q1　能登半島地震の影響について教えて欲しい。近隣に工場があり架設中の現場などもあったと思うが。

A1　弊社の本社、生産工場が震源地から 60km ほどの場所にありますが、建物等に軽微な被害があったのみで、人的被害はありませんでした。稼働中の現場についても、再開までに時間を要し若干の工期遅れはあるものの、当日は休場であったことや工程初期の現場であったこともあり、重大な影響はございません。
なお、弊社グループとして、ゼネコンへの人員の応援派遣を通じて復旧のお手伝いをさせて頂いております。

Q2　土木セグメントにおける業界再編の兆しとは何か。

A2　更新事業の市場が大きくなり、ゼネコン各社からも無視できない規模になっていると推察します。昨年度、大手ゼネコンが大手 PC 橋梁メーカーを買収するということがありました。人手不足や資材高騰のなかこの市場に注力するため、今後同様のアライアンスが起きる可能性も否定できないと考えております。
他にも、大手商社がゼネコンなどのホワイトナイトになるケースもありました。過去には建設業界においては「1+1 が 2 にならない」などと言われておりましたが、こういった波が少しずつ起きているようにも考えております。

Q3　ソリューションビジネスにおけるロボットの構成比や伸びはどうであったか。また、AI の技術進歩で今後の貴社人型ロボットの展開は変わるか？

A3　ロボットビジネスは、コロナ禍においては現地での打合せ忌避による営業難やトレンド変化などで販売が苦しみ、また終息後における世界的な半導体不足もあって、ソリューションセグメントにおける構成比は小さく、開示いたしておりません。しかしながら、昨今は人手不足や円安を背景とした日本国内への生産拠点回帰の流れもあり、多くの引き合いを頂戴しております。
AI については、我々は技術を持っておりませんが、アライアンスなどを通じ我々の強みである人型ロボットのハードウェアと AI を組み合わせることで、様々な展開ができるものと考えております。

以上